



訪問先で真剣に聞き入る職員

### 「高齢者医療・介護・生活実態調査」の取り組み

小泉「構造改革」による「痛み」の押しつけは、とりわけ高齢者に耐え難い困難をもたらしており、医療・介護・生活の全般にわたり、様々な矛盾が高齢者に集中しています。今年4月からの税制改悪の影響で、住民税や、各種保険料の負担が急増し、また追い討ちをかけるかのように、今年10月から医療保険の窓口負担も増え、療養病床の居住費や食費も自己負担になりました。こうした負担増が、特に高齢者の方々の生活に深刻な影響を与えています。このような情勢の中で位置づけられたのが「高齢者医療・介護・生活実態調査」です。これは65歳以上の友の会員を対象に、全職員が地域に出て、現実をリアルにつかみ、高齢者の生活と人権を守る運動を進めるものです。民医連の役割を体感することをねらいとしています。

調査対象者からは、「本来、全額生活費に当てるのが年金だと思えます。僅かな年金からいろいろな税金を引かれて、国は、私たちに死ねと言っているみたいで、怒りを感じます。」「デイサービスの回数を週6回から3回に減らしました」などの意見が寄せられました。職員からは、「切り詰めて生活をしている様だが、高齢者のくらしは悪化していくばかりで、とても他人事ではない」「これ程まで格差社会が広がっているとは思わなかった」など、地域に出て初めて実感できる貴重な意見が寄せられています。

私たちの院所でもこの調査をもとに、日々の活動に活かし、また、国・自治体にむけての要求・改善運動に結びつけていきたいと思えます。

# 困ったときはご相談を！

診療報酬の改定に始まり老年者控除の全廃や公的年金控除の縮小などで高齢者などにも過酷な負担増を強いられるなど、これでもか！というくらいに社会保障制度が次々と改悪され、憲法で保障した生存権でさえ破壊されようとしています。

医療情勢が大きく変化していく中で米の山医療社会科（相談室）にも毎日様々な『問題』を抱えた方々からの相談があります。ここ数カ月間に受けた相談内容を少し紹介致します。

- ①「入院費が高額になりそうですが……どうしたらいいですか？」
- ②「入院中の治療が終わったが、家の造りやいつも介護できる家

族がいけないため今すぐ家に連れて帰る事が出来ない。」

③「自宅へつれて帰りたいけど車椅子生活になり、家の改造をしなければ生活できない。」

④「労災保険での装具・補装具の支給はどうすればいいのですか？」

⑤「もともとインターフェロン投与の医療費が、月に約5万円かかり、年金生活になって、支払いが大変になり、国の責任において、医療費負担が減額されるようにならないか」等の切実な問い合わせも寄せられています。

この他では今後、住民税、国民健康保険料、介護保険料などの増額、医療費の値上げ、年金の引き下げな

どの影響もでて、様々な相談が出てくるかと思われるます。ひとりで考えず小さな事でも構いません是非御相談をして頂くようお願いいたします。

医療費値上げ!  
住民税 国民健康保険料 介護保険料 大幅引き上げ!  
増税!増税! あ〜!こわい! 喜ぶしかないけん!

困った時は  
ご相談を!

お気軽に相談ください  
連絡先: 米の山病院 地域連携室

米の山病院  
地域医療連携室

## シベリア抑留体験

永田 勇



(極寒のなか伐採作業を終えて  
收容所に引き上げる)

私は、1945年8月から丸3年、ソ連のシベリアに抑留され、重労働を強いられました。その経験を話し、平和の尊さ、戦争の悲惨さをお伝えしたいと思います。

私が抑留された1945年、46年は特に寒さが厳しく、平均温度が零下40度でした。耳は防寒帽を被っていても油断すれば凍傷にかかります。鼻は、太陽が当たる反対側は凍傷にかかるときもあります。23歳の若かった私も、この冬を乗り切れるだろうかと非常に不安を感じまし

た。食糧は、1日黒パン300グラム、スープ1杯程でした。10センチ足らずの丸太や石ころにも足が上がりず転ぶようになります。重労働と極寒、栄養失調で多くの労働不能者や死者が続出しました。私は、農地開墾のため原生林の伐採を1年間やらされ、鉄道工事、貨車の荷おろし、住宅建築などにも従事しました。幸いにも生きて帰れましたが、シベリアなどソ連全土2000ヶ所に抑留されたのは64万人、死亡は6万人といわれ、いかに過酷で悲惨な強制抑留だったか、いまも忘れることができません。しかし、そうした状況の中でも、收容所内の民主化運動が準備され、食料横領の摘発、将校の食料のピンハネや横暴の告発、食券廃止、学習室の設置などが実現しました。そして、若かった私は、はじめて社会を科学的に捉える考え方を学びました。

いま、また戦争への道をすすみはじめようとしています。憲法9条を守り、二度と戦争をしない平和な日本を願ってやみません。

# 院内ラウンジに参加して

友の会が病院を45分見学

10月20日、友の会と院所との定期協議会の後、第1回目の院内ラウンジに参加しました。患者の立場から院内を観察するということで、外来看護受付、処置室、小児科、総合案内受付を回りました。参加した4人の支部長から以下の感想と意見が出されました。



- 待合室は明るくて、椅子の配置もいい。
  - 待っているとき、患者の様子を看護師さん達が観察してくれているのがわかるようになっていく。
  - 掲示物はよく理解できるように、ポイントを明確に。
  - 外来の患者がどこにいつていいか戸惑うことがないよう診療の場所を示す表示物をもっと必要ではないか。
  - 待ち時間が分かるような、システムを考えてほしい。
- 改めて、院所の職員のみならず、患者様が受診しやすいように工夫、努力を重ねている様子が強く感じられました。

ありあけ友の会副会長 下川 博子

## 病院清掃業務のコンテスト九州大会 大牟田事業所が優勝



センター事業団が米の山病院の清掃業務を委託されるようになってから22年が経ちます。随分と永くて重たい歴史があることを感じます。

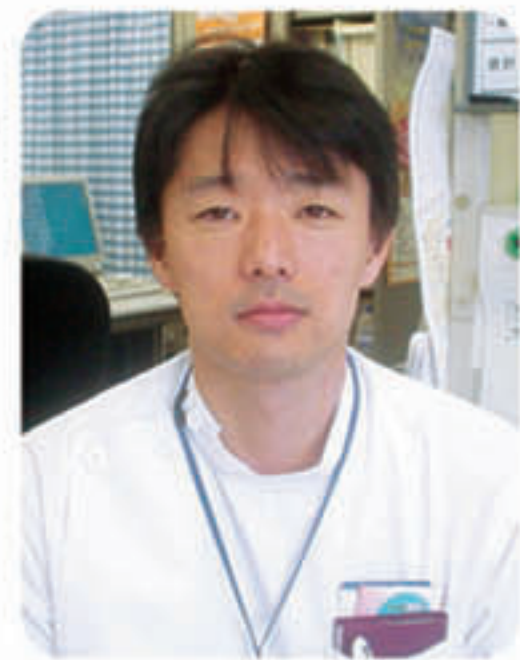
労協センター事業団として昨年より、病院清掃業務のコンテストが開催され、今年が2度目ですが、九州大会のコンテストで大牟田事業所が優勝しました。

医療関係の経営が厳しい今こそ、医療従事者として、患者様の生活環境を明るくするため、全員で頑張ります。この力をバネにして病院清掃業務コンテスト、全国大会に挑戦します。

## 医師紹介

◆米の山病院 循環器科

佐田 耕一郎



本年10月より、米の山病院に着任致しました。昨年10月から一年間、心臓カテーテル検査お

よび治療の研修を行ってきました。循環器疾患は、高血圧・心不全・不整脈・大動脈疾患、弁膜疾患など多種多様ですが、なかでも食生活・行動様式の変化から、虚血性心臓病、つまり、急性心筋梗塞や狭心症が近年増加傾向にあります。その診断・治療に欠かすことができないものが心臓カテーテルによる検査と治療です。虚血性心疾患のみならず循環器疾患全般につき、地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいります。お気軽にご相談ください。宜しくお願ひします。

## 本当は怖い インフルエンザ

ただの風邪ではありません



インフルエンザは皆さん風邪だと思っていらいらっしゃるでしょう？違うのです！「インフルエンザ感染症」と呼ぶのが正しいのです。O、157やSARS（サーズ）など、感染症はとても怖いですね。特に予防対策をしつかり身につけ、無意識にできるように日ごろから訓練を欠かさないことが大切です。

- ではポイントをご紹介します。
- ① ストレスを解消し健康生活を
  - ② 手洗い・うがう・マスク
  - ③ 無理をしない
  - ④ 人ごみを避ける
  - ⑤ ワクチン接種
  - ⑥ 咳・高熱・節々の痛み・耐えがたいだるさ
- おぼあちゃんの教えですよ。休むことも大切です。せまくて窓の無い所は「ジョン」の咳が感染のキケン大!!
- 副作用が無かった方はぜひ！
- ①〜⑥を皆さんで取り組みましょう。

# 秋のおすすめ料理

今が旬!

## さつまいもとキノコの炊き込みご飯



管理栄養士  
垣田 あゆみ



### 材 料 (4人分)

- 米……………3合
- しめじ……………80g
- まいたけ……………40g
- エリンギ……………40g
- さつまいも……………80g
- 人参……………25g
- 鶏モモ肉……………100g
- だし汁……………800cc
- 薄口しょうゆ…大さじ4
- みりん……………大さじ2
- 酒……………大さじ1

だしは、1000ccの水にかつお節20g、だし昆布5cm×4cm程度を目安に。お好みですが、椎茸のだしよりも、かつおだしのほうがおいしく炊き上がる。

### 作り方

- 1) 米は研ぎ給水させておく。
- 2) しめじ、まいたけ、エリンギは石づきを取りさっと洗う。さつまいもは1cmの角切り、人参はみじん切りにする。
- 3) 鶏肉は強火でローストし軽く焦げ目をつけ、一口大に切る。
- 4) ①②③と吸い物より少しからめに調味し、だし汁を入れて炊く。キノコから水分が出るので、だし汁の量は通常炊くよりすこし少なめに入れる。
- 5) 炊き上がったご飯をさつまいもをくずさないように混ぜてできあがり。



## クイズ 頭の体操

これらの文字には共通点があります。共通点はなんでしょうか。

井、大、巻、玉、寸  
木、化、人、口、古

No.17 (9月1日号) の答は、「池」でした。正解者は、松田誠様 (南関町)、下川博子様 (大牟田市)、江口正裕様 (高田町) の3名でした。正解者の方には、粗品を進呈いたします。

### 応募のしかた

答えを紙 (ハガキ) に書いて、送っていただくか受付までお持ち下さい。FAX、メールでも可。〆切は2006年11月末日。正解者の中から抽選で5名様に粗品を進呈します。  
機関誌や米の山病院についてのご感想、ご意見などもお寄せ下さい。

## 班会で、がんばる研修医

### 増茂医師班会デビュー

三池支部長 下川博子

10月5日(木)本村班は、地域サポートセンター「あじさい」で班会を開きました。会員8名と増茂医師、垣田管理栄養士をはじめ総勢14人での班会となりました。

テーマは「メタボリックシンドローム」で、垣田さんから講話を聞きました。その後お腹の周りを計って内臓脂肪のつき具合を調べて、ひとりひとりへの指導を受けました。垣田さん持参のおいしい酢のものを

食べながらのおしゃれタイムでは、はじめて班会に参加された増茂医師に質問が相次ぎ、なごやかな班会となりました。

